

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2025 年 5 月

第 133 号

主な予定

5 月 11 日 (日)

10:00~11:00

通常総会

於：管理棟前

5 月 30 日 (金)

10:00~10:40

大津ヶ丘第一小学校

5 月 30 日 (金)

13:30~14:00

旭東小学校

6 月 6 日 (金)

13:05~13:45

柏第四小学校

4 月 13 日 (日) 自然観察会

平岩 昌子

2025 年 4/13 (日)、こんぶくろ池自然博物公園内で自然観察会を行いました。例年季節ごとに、市内の小学校 3 年生の校外学習の園内引率や、クモやキノコの観察会などを行ってきましたが、今回は植物中心の観察会です。

前日の天気予報では雨（ただし降水確率の高いものの降水量 0~1mm/時間）でした。少々の荒天でも参加する方もいれば、当日の天候では是非を決めようという方もいると想定し、運営側では少雨決行、但し参加の是非について連絡不要と参加者さんには伝えました。結果申込者数 33 人のところ、参加者は 23 人。当日は 3 回構成で 1 回あたり 1 時間の設定でしたが、時間の経過とともに曇天から小雨へ。並行してスタッフも園内研修を受け、スタッフ全員が情報共有し疑問点・問題点の解消も行いました。予想以上に参加者の数が多いことに驚きつつも、天候による安全管理上の不備がないようスタッフも気を引きしめつつのガイドでした。

予定の観察ポイントは、ワタラセツリフネソウエリア（草地）ではノビル・アカメガシワ・ハシバミ・ヒメコウゾ・マグワ・ウワミズザクラ・ジロボウエンゴサク、こんぶくろ池周辺ではイロハモミジ・ウラシマソウ・カサスゲ・ヒサカキ・ムラサキケマン・アオキ、弁天池周辺ではゴマギ・ニワトコ・サンショウ、ノジトラノオエリア（草地）ではキジムシロ・ミツバツチグリ・タチツボスミレ等、晴天であれば春の訪れを感じ、身近なものでも案外知られていない植物の特性を知ってもらえるような構成でした。



しかし、午前中の1回目・2回目くらいまでは予定コース通り行えたものの、午後の3回目は風雨ともに激しくなり、コースを短縮して早めに切り上げとなりました。あいにくの天候でしたが参加者さんは近隣にお住まいの方で来園したことがある方もいて、スタッフの説明で普段何気なく目にしている植物の新たな一面を知り、より身近に感じられたと大変満足いただけました。

この取り組みは地域の人々にこの公園に親しむ機会を増やすとともに、事前研修によって私たち会員の園内生態系の理解を深めることにもつながり大変意義深いものとなったように感じました。



自然観察会 参加者アンケートの結果（抜粋）

Q 自然観察会に参加した感想をお伝えください

- ・ 植物だけではなく昆虫の視力について教えていただけてとても勉強になりました。
- ・ 初めての参加で小雨でしたが、楽しめました。…中略…良い経験をさせていただけて感謝しております。また都度伺います。
- ・ 子どもにも優しく接してくださってありがたかったです。
- ・ あいにくの雨でしたが、雨の森の雰囲気もまた良かったです。でも晴れていればもう少し広い範囲も歩けたし、写真も撮れただろうなと思うと少し残念でした。近いうちに晴れている時にまた訪れたいと思います。違う季節での観察会があればまた参加したいです。ありがとうございました。
- ・ 親子とも動植物の本が好きなのですが、実際に見て感じる生態は本で知る何倍も面白く感じました。

Q 当園の植生環境について、特に印象に残った点があれば教えてください

- ・ 説明や手入れの状況から、皆さんが大切に管理されていることが伝わりました。

- ・ ズミが自然に残っている、というのが貴重なことだ、というのが印象的でした。
- ・ この場所の過去のいろいろが重なって、今この環境がうまれたことがすごく不思議に感じました。

Q 個々の植物で、特に印象に残った点があれば教えてください

- ・ ウラシマソウ。説明がなければ素通りでしたが、知ると面白い植物でした。
- ・ ゴマや山椒、きゅうりの匂いがする植物は体験することで強く印象に残りました。息子もゴマの匂いがする葉っぱが気に入ったようです。
- ・ ズミの花がずっと咲き続けられる環境がこの先も長く残って欲しいと思います。

Q 自然観察会を含めて、当園へのご要望などがあれば教えてください

- ・ 子どもや親子向けのイベント開催があると嬉しいです。
- ・ 自然観察会、とてもよかったです。回数がもっとあると嬉しいです。…中略…常駐の自然案内の方がいらしたらいいのになあ、と思いました。

会員向け内部研修

矢島 修二

自然観察会の一環として、この数年に入会、また違った分野でご活躍されている方々を対象に今回初めて実施しました。調査班での活動が長い橋本谷さんと私が、13名を2回に分けて希少種を中心に保全・再生活動の現状を見て回りました。

毎月の活動日では、作業スケジュールが組まれていますが、このような機会を捉えて現場で語り合いながらの経験談義、研修とは言えなかったかもしれません。参加された皆さんは如何だったのでしょうか。

私自身は、ご意見、質問等で交流しながら活動をリフレッシュする良い機会でした。

今回のルートを少し振り返ってみます。

まず、こんぶくろ池自然博物公園のシンボルとして、古い地元の人々に親しまれていた道路際ツリフネソウエリア東側にあるイボタノキ、3年前に枯れてしまった話から。

春から初夏にかけ、甘い香りを放つ白い花、多くの昆虫（特にチョウ類）が集まることから「昆虫の宝庫」とも言われています。残念！ 保全に失敗したのか、いや老木化で寿命だったかもしれない、

何とかしなきゃ。幸い地金堀の北側にはやせ細ったイボタノキが何本も自生しています。即、同一箇所へ3本の移植を実施しましたが、今では日照に恵まれて、ここ3年で大きく育ち、多くの花をつけ見事に復活しました。

この季節、周辺を見渡すとイヌザクラとウワミズザクラが満開、両方ともサクラらしくない白いブラシ状の花序を付け、新緑の葉っぱが加わり、この美しさを皆さんと共に実感。誰となくイヌザクラとウワミズザクラの見分け方を教えてと声がかかる。（花序のある枝に葉が付くのがウワミズザクラ）目前で観察し確認、ハイ納得です。

次に、5年前からの「ヌマガヤ、サワシロギク保全計画」について、自生地（こんぶくろ池左奥の湿地）を前にして経過を説明。10年前、サワシロギクは、ここに10株以上（開花頭数20以上）が自生していました。近年では衰退気味、ここでの保全再生のため、種子採種（初芽せず）、保護柵、周辺の枝木伐採等の対策を試みたがうまくいかず、挿し芽で再生していることを報告（挿し芽が適期の6月、芽を持ち帰り根付かせ花芽が付くまで自宅管理してから戻す）。既に、その挿し芽、3年前に最初の移植地で2株の開花頭数42を確認できました。でも周辺の雑草繁茂で管理が困難を窮め、再移植を検討するに至りました。

同様に、ヌマガヤに於いてもこんぶくろ池湿地では大きく育たず減少気味です。

似たような状況下で生育するカサスゲが地下茎を這わせヌマガヤの領域を奪うほど旺盛化している現状を見てもらいました。間引いてはいますが、でもカサスゲもこんぶくろ池の浄化には必要なんです。では、その違い、原因は何だろうか？ 日照、土壌、水質の富栄養化が問題なのか？そう言えば、近年こんぶくろ池の湧水不足で浄化槽経由の地下水を活用してからかなあ？植物って人が手を加えれば、良くも悪くも正直に答えてくれるのを実感。

続いて弁天池水路岸辺に移動。この地は弁天池からの自然の流れと明るい環境の中、背丈ほどのヌマガヤが20株ほど自生し花穂をつけ続けています。であれば、同じような環境で生育するサワシロギク挿し芽の再移植地には最適かも。2年前に元々3株から始まり、地下茎を経て今年は30株以上の新芽を確認しています。



次に、おもしろいハナйкаダの観察へ。葉っぱ中央部の上に小花を付け、秋には実となる植物、湿り気のある半日蔭に生育、2ヵ所の雌花が自生している場所を紹介、知っていてほしい話題の一つです。

最後は、クロツバラ、クロウメモドキのエリアへ向かう。何としても、「こんぶくろ池自然博物公園の象徴」であり、現在未来にわたって大事に管理していかなければならないが、現状はどうなのか。自生2本のクロツバラは老木化しつつも（ヒコバエ有り）種子から育てた2本（10年程前）と更に追加した2本で順調に受け継いでいます。

クロウメモドキは、自生3本（雄1、雌2）の内、雌の1本が枯れ死の状況。種子から育成中の幼木が順調に根づき、育ってくれるか注目しています。

以上、短時間の研修ではありましたが、準備する間もなく普段の活動でやっていることを現場で現物を見ながら説明しました。更に、知識を得たいと思えば、過去の報告書、その種の書籍が多々あります。が、実際に体験する中で、失敗を繰り返しながら身に付けていく活動こそ成果と楽しさがあると思います。改めて、こんぶくろ池自然博物公園の自然の美しさに感動しました。

3月2日（日）こんぶくろ池保全活動報告会から 希少種の保全

1- はじめに

最終氷河期の終わり頃（晩氷期）に北総台地には冷温帯の植物群が生育していたと考えられており、当園は暖温帯にありながら冷温帯性の遺存植物も生育している。それらを含む希少種の保全について報告する。

次にあげる植物は全て、千葉県レッドデータブック 2023 改訂版に B（重要保護生物）として掲載されている。

2- 希少種の生育状況とその保全

2-1. 挿し木や実生を植栽した種（園内で個体数が少ない種）

担当者 酒井一男 矢島修二

種	自生		植栽								
	本数	生育地	2022年度まで			2023年度			2024年度		
			園内での採集	植栽数 合計	植栽地	園内での採集	植栽数 合計	植栽地	園内での採集	植栽数 合計	植栽地
クロウメモドキ (クロウメモドキ科)	計3本 雄株1本 雌株2本	南2 南1				2021年 挿し木	2本	南1	2023年 採種 挿し木	2本	南2 実生1本 挿し木1本
クロツバラ (クロウメモドキ科)	2本	南1	2013年 採種	2本	2017年3月南1	2021年 挿し木	6本	中央6 3本 中央8 2本 南1 1本	2023年中央6 への植栽木を 移動	3本	7月南3 2月管理棟前へ (鉢植え) ※2月はナラ枯れ被害木伐採前に避難
サワシロギク (キク科)	1株	こんぶ くろ池 脇	2020年 挿し芽	1株	2021年北1 (ワ タラセツリフネ ソウエリア)	2020年 挿し芽	2株	2023年 弁天水路左岸	2021年北1 (ワタラセツ リフネソウエ リア) 植栽株 を移動	1株	弁天水路左岸
ノリウツギ (アジサイ科)	1本	北3	挿し木	2株	2022年 弁天水路右岸1本 管理棟前1本	挿し木	1本	管理棟前	挿し木	2本	弁天水路左岸

2-2.現況調査を行った種（園内で個体数が多い種）

- ① ズミ（バラ科） 別途報告担当者 橋本谷弘司
- ② ヌマガヤ（イネ科） 担当者 矢島修二

確認株数（ ）内は開花株数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
こんぶくろ池周辺	23	29	25	29(0)	28(0)
弁天水路岸辺	4	6	9	11(6)	10(7)
ふじ池周辺	150 以上	150 以上	未確認	178(未確認)	167(7)

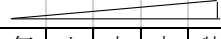
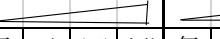
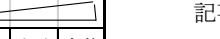
2024 年度調査 10 月 27 日（こんぶくろ池周辺 6 名） 10 月 29 日
11 月 17 日（ふじ池周辺 7 名）

3- まとめ

こんぶくろ池周辺では 2016 年頃からカサスゲの繁殖が著しく、一方で貧栄養の湿性環境を好むとされるサワシロギク、ヌマガヤが衰退傾向にある。このような状況下でサワシロギクの保全に取り組み、2020 年度からヌマガヤの株数カウントを開始した。湧水で涵養される弁天水路の周辺では、ヌマガヤ周辺で適度な整備が行われ、ヌマガヤだけでなく移植したサワシロギク 3 株も多数の花をつけ生育が良い。ふじ池周辺ではヌマガヤの株数が安定している。

編集 上田真佐江

ズミの現況調査

ズミの現況調査(2024年)															NPO法人こんぶくろ池自然の森											
															着花調査日					2024.4.14、21						
															結実調査日					2024.10.27、11.1						
場所	No.	樹高 (cm)	幹径 (mm)	樹冠幅					樹勢					着花量				結実状態				記事				
					無	小	中	大	特		無	弱	中	強	特		無	一部	半分	全体			無	一部	半分	全体
地金堀北側	7	336	40			○						○			○					○				ヒコバエ有		
	8	227	18		○							○				○				○						
	9	229	46				○					○					○					○				
	10	362	38		○							○				○				○						
	11	568	91				○					○					○					○				
	12	434	48				○					○					○					○				
	13	525	113				○					○					○					○				
	14	334	56			○						○					○					○				
	15	378	81				○					○					○					○				
	16	365	43			○						○					○				○					
	17	451	62					○				○					○			○						
	18	150	8		○							○		○				○						2018.12.10追加		
	19	190	15		○							○			○				○					2019.11.25追加		
	39	163	16		○							○					○				○					
	40	232	43			○						○					○					○		ヒコバエ有		
46	244	37			○						○				○			○								
地金堀南側	20	300	35			○				○						○						○				
	21	420	35				○				○					○						○				
	22										○													枯死		
	24																							枯死		
	25	483	70				○				○						○						○			
	26	281	30		○						○					○			○							
	27	427	90				○				○						○			○						
	28	488	45				○				○						○			○				ヒコバエ有		
	31	381	35			○					○						○		○							
	32	235	29		○						○		○					○								
	33	481	80			○					○					○				○				ヒコバエ有		
	34	289	40			○					○			○			○							2018.12.10追加		
	35	191	27		○						○				○			○								
	36	288	24			○					○				○			○						2018.12.10追加		
	41	261	40			○					○					○			○							
	42	150	10		○						○			○				○						枯死？		
	43	301	40			○					○			○				○								
	44	281	30		○						○			○				○								
47	220	29		○						○			○				○						根元に葉あり			
50	227	19		○						○			○				○						2022.4.21追加			
弁天池	38	288	55			○				○						○				○						
野馬土手	3	556	75				○				○						○		○							
	4	489	55				○				○					○		○								
	5																							枯死		
	6	245	20		○						○			○				○								
掩体壕	1	361	55			○					○				○				○							
	48	320	40			○					○					○			○							
	49	321	30			○					○					○			○							
第一近隣公園	Z-10	315	45		○						○				○				○							
	Z-11	445	55				○				○					○			○							
	Z-12																							枯死		
	Z-13																							枯死		
	Z-14	257	20		○						○			○				○								
	Z-15	266	35		○						○					○				○				ヒコバエ有？		
	Z-16	150	20		○						○			○				○								
	Z-17	317	20		○						○			○				○								
	Z-18																							枯死		
フクズミ	155	15		○						○			○				○						2019.4.13追加			
【樹冠幅】		無：枯木		小：3m以下			中：3～4m程度			大：4～5m程度			特：6m程度													
【樹勢】		無：枯木		弱：樹形が大きく崩れ葉がわずかししか付いていない										中：枯れ枝が目立つ												
		強：通常の樹形で枯れ枝が目立たない		特：新枝の伸びが著しく葉量が多いもの																						
【着花量】		無：着花無		一部：樹冠の一部に着花					半分：樹冠の半分程度に着花					全体：樹冠のほぼ全体に着花												
【結実状態】		無：結実無		一部：樹冠の一部に結実					半分：樹冠の半分程度に結実					全体：樹冠のほぼ全体に結実												

ズミの経年変化

年	地金堀北側（本数）						地金堀南側（本数）						弁天流れ（本数）						野馬土手(本数)					
	基準	追加	枯木	計	開花	結実	基準	追加	枯木	計	開花	結実	基準	追加	枯木	計	開花	結実	基準	追加	枯木	計	開花	結実
2018	14	0	0	14	—	12	17	0	1	16	—	9	1	0	0	1	—	1	4	0	0	4	—	2
2019	14	2	0	16	13	13	16	2	0	18	14	13	1	0	0	1	1	0	4	0	1	3	2	2
2020	16	0	0	16	13	10	18	0	0	18	13	11	1	0	0	1	1	0	3	0	0	3	2	2
2021	16	0	0	16	14	14	18	0	1	17	13	13	1	0	0	1	1	0	3	0	0	3	3	0
2022	16	0	0	16	15	14	17	1	0	18	12	11	1	0	0	1	1	0	3	0	0	3	3	2
2023	16	0	0	16	14	13	18	0	0	18	13	11	1	0	0	1	1	1	3	0	0	3	2	1
2024	16	0	0	16	15	15	18	0	0	18	12	10	1	0	0	1	1	1	3	0	0	3	2	1

年	掩体壕（本数）						一号近隣公園（本数）						総合計（本数）						割合（総合計）	
	基準	追加	枯木	計	開花	結実	基準	追加	枯木	計	開花	結実	基準	追加	枯木	計	開花	結実	開花率	結実率
2018	3	0	0	3	—	3	9	0	0	9	—	1	48	0	1	47	—	28	—	—
2019	3	0	0	3	2	2	9	1	1	9	2	1	47	5	2	50	34	31	68%	91%
2020	3	0	0	3	3	3	9	0	1	8	2	2	50	0	1	49	34	28	69%	82%
2021	3	0	0	3	2	2	8	0	1	7	2	1	49	0	2	47	35	30	74%	86%
2022	3	0	0	3	3	3	7	0	0	7	2	1	47	1	0	48	36	31	75%	86%
2023	3	0	0	3	3	1	7	0	0	7	2	1	48	0	0	48	35	28	73%	80%
2024	3	0	0	3	3	3	7	0	0	7	3	2	48	0	0	48	36	32	75%	89%

注。結実率＝結実本数/開花本数

ズミの状況について

2018 年ごろ、ズミは結実状態がわるく、このままでは絶滅するのではないかとの話がありました。

調査班は毎年開花状況を確認していましたが、結実状態を含めて記録という形で整理していませんでしたので、2018 年の秋から結実状態を記録し、次年からは着花量と結実状態を記録して今日に至っています。

なお、2018 年には結実していることを確認するとともに、2019 年 4 月には徳永さと子さんをお願いして、ズミの花への訪花昆虫の調査を実施し（こんぶくろ池通信 2020 年 6 月第 74 号）ヒメハナバチ科やミツバチ科の昆虫がメインの役割を担っていますが、チョウ目、ハエ目、甲虫目の昆虫も訪花しており多様性に富んでいることを確認しました。

7 年間の調査を行いました若干のバラツキはありますが、開花率は 75%程度で、その内の 85%程度が結実しています。枯木は 6 本発生し、あと 2 本ぐらいいは枯死の状況にありますが、その他の 46 本の木は安定した状態が続くものと推察されます。

2019 年 1 月から開始されたズミプロジェクトでは園内で採集した果実から種子をとり、約 150 株の実生苗を育てて植樹を行いました。植栽ズミのうち 3 本（2013 年播種 2 本、2018 年播種 2 本）が 2023 年春に開花結実しました。植樹したズミの結実を確認しましたので、ズミの調査は所期の目的が果たせたと思います。

今後は、植樹したズミの観察にシフトし、在来ズミは年 1 回程度の周辺整備を行えばと思います。

担当者 橋本谷弘司

新入会員紹介 山田 行雄さん



参加動機：池の付近を走っていると皆さんの活動を見て参加したいと思った。

趣味・好きなこと：マラソン大会出場、マラソン観戦、マラソン応援

貢献できそうなこと：公園整備、機械・電気・工具のメンテナンス

取り組んでみたいこと・分野：電動工具のメンテナンス

ひとこと：土曜、日曜に大会、応援があり、マラソンシーズン中は不定期の参加になりますが、よろしくお願いします。